

ていほんおおやまであらえんぎえまき

#35 定本大山寺縁起絵巻（上・下）

作者：川島敏郎（かわしま・としろう 1947-）

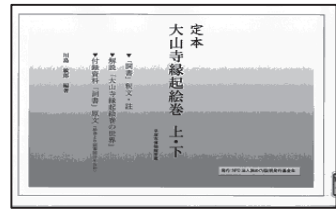
刊行：平成24年（2012）



📖 解題

■ 内容

大山寺の創建の由縁が記されたものが、大山寺縁起絵巻である。近世大山信仰が隆盛した背景には、大山御師による宣教活動がある。信者の獲得や拡大の手立てのための教材となった大山寺縁起の諸本が、民間への流布に大きく影響した。



[K18.64/40]

本書は平塚市博物館所蔵の『大山寺縁起絵巻 上・下』を底本としている。大山寺縁起には漢字だけで書かれた真名本と仮名交じりの仮名本が存在するが、平塚市博物館蔵の『大山寺縁起絵巻 上・下』は仮名本である。上巻・下巻の2巻から成り、詞書と絵画を織り交ぜながら、絵巻物として視覚的に展開する。奥書によると制作は享禄5年（1532）で、現存する仮名本縁起絵巻の中で最も古い。詞書を記したのは祐賢坊乘真（ゆうけんぼう じょうしん）。絵筆者は不明である。乗真により修験者と思しき大源坊と東学院に寄進された。

この絵巻物を定本にしたのが本書で、原本の詞書にそって釈文と註を施す。上巻の詞書11段と絵画11紙、下巻の詞書13段と絵画12紙で構成される。また大山寺縁起絵巻の成立や内容、背景に関し、他の大山寺縁起絵巻と比較しつつ解説と現代語訳を付す。巻末には付録資料として詞書原文全文の写真を収録している。

形態は冊子体で、NPO法人旅めぐり証明発行基金が発行した。平成24年10月に伊勢原市で開催された「川島敏郎先生出版記念会」の出席者

第3章 思想・宗教

に提供するための「1,000部限定本」と記載がある。またテンプレート付電子書籍版を同NPO法人のホームページ上で閲覧できたが、2017年5月に同NPO法人は解散し、サイトも閉鎖されている。当館所蔵の本書は利用に供す貴重な1冊である。当館以外では、横浜市中央図書館で所蔵が確認できる。

■ 作者

作者の川島敏郎は昭和22年(1947)静岡生まれ。早稲田大学大学院文学研究科博士課程日本史学専攻満期退学。社会科教諭として神奈川の県立高等学校に赴任した際、伊勢原市教育委員会の後援を受け、伊勢原の古文書を読む活動を開始した。大山関連の史料を市民と読み込むとともに、市民講座を開講し現在も講師役を務める。『定本大山寺縁起絵巻 上・下』の上梓は長年にわたり行われた「大山夏季講座」の副産物といえる。県立高等学校教諭の職を退いた後は神奈川県立公文書館に勤務。また『伊勢原市史』編纂委員、産業能率大学客員研究員等を歴任する。現在は伊勢原市文化財保護審議会の役員として、なお研究に勤しむ。当館が公開する神奈川県郷土資料アーカイブ「相州大山」の協力者の1人でもある。

主な著作に『相州大山信仰の底流』(山川出版社)、『大山詣り』(有隣堂)、共著『伊勢原市史 通史編3 近現代』(伊勢原市)など多数。

参考文献

- 『大山寺縁起』大山寺 1984 [K18.64/23] [N5.2/ダイ]
- 「長井貞秀書状」(『鎌倉遺文 古文書編 第30巻』竹内理三編 東京堂出版 1986) [210.08/95/1-30]
- 『伊勢原市史 資料編1 古代・中世』伊勢原市 1991 [K21.64/7/2-1]
- 「開導記」(『伊勢原市史 別編 社寺』伊勢原市史編集委員会編 伊勢原市 1999) [K21.64/7/3-2]
- 川島敏郎「古記録から見た大山信仰の諸相:『大山寺縁起絵巻』・『大山不動靈驗記』を中心として」(『神奈川県立公文書館紀要』第6号 神奈川県立公文書館 2008) [K01/71/6]